資料2

「畜産品」輸送のフォローアップについて

東北運輸局岩手運輸支局

令和6年3月

「畜産品」輸送のフォローアップについて

国土交通省

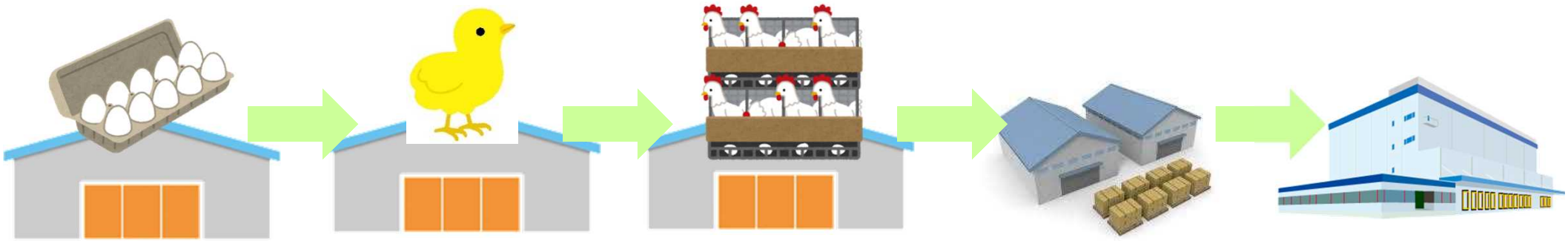
荷主へのヒアリング

令和2年度から本協議会が対象輸送分野として選定してきた「畜産品」について、昨年度に実態調査を行ったが、依然待機時間・荷役作業時間が長いという結果であったことから、フォローアップとして委員である「（株）十文字チキンカンパニー」にご協力いただき、現状や取り組まれている改善策についてヒアリングを行った。

（株）十文字チキンカンパニーの概要

〇主に扱う商品は生鮮品や冷凍品で、一日に約400トン（約22万4千羽）を加工処理・配送している。
〇種鶏の飼育から加工まで一貫体制で行っており、製品の約7割を関東方面へ出荷している。
〇種鶏農場⇒孵卵場⇒生産農場⇒処理工場⇒取引先（倉庫等）のそれぞれで配送が行われており、基本的には運送事業者へ配送を依頼している。
〇車格は10tトラックが主。

種鶏農場 → 孵卵場 → 生産農場 → 処理工場 → 取引先倉庫



※２５農場
※常時約５０万羽飼育

※県内２箇所
※雛生産能力
約２２万４千羽／日

※県北を中心に
１７１農場

※県内３箇所
（久慈・二戸・八幡平）

※埼玉・神奈川に
倉庫が多いため、
総出荷量の７割が
関東圏

（株）十文字チキンカンパニーに対するヒアリング結果

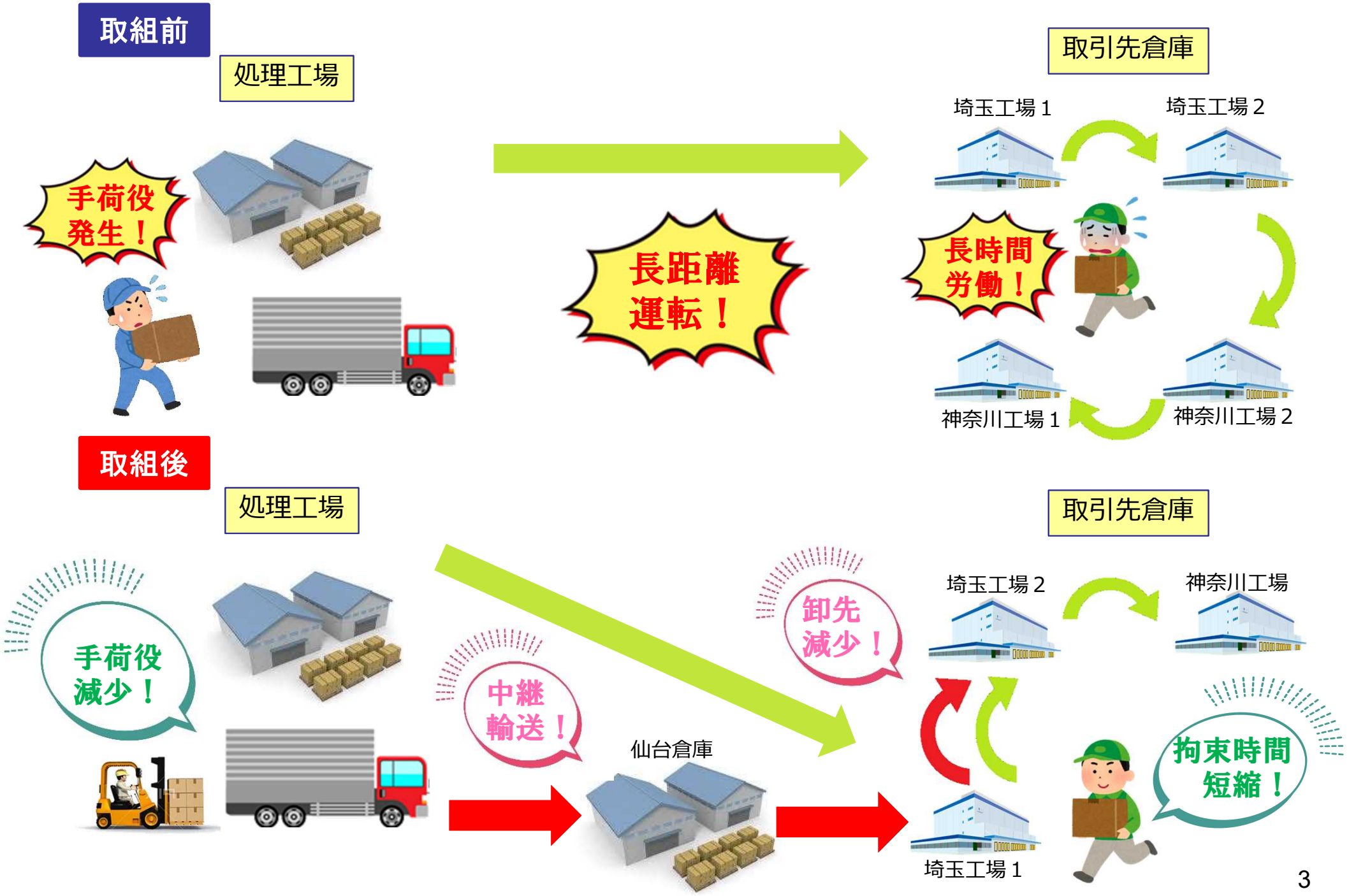
国土交通省

ヒアリングした主な課題

〇積卸時間が長い
⇒手荷役が多かったため、10t車への積卸作業に長時間を要していた。
〇卸先が多い
⇒1車に複数取引先の荷物を積まなくてはならず、卸先毎に待機・荷役作業が発生するため、ドライバーの拘束時間が長期化していた。
・以上に加えて、2024年問題もあり、運送事業者から「運べません。」と言われることがあったとのこと。
・運送事業者側から具体的な改善策が出されることが少ないため、改善方法について日々検討している。
・積み込み時の長時間の待機時間は確認されなかった。

（株）十文字チキンカンパニーの製品輸送に関する主な取組

①パレット化による手荷役の機械化
⇒従来はばら積みで、手荷役をドライバーに頼んでいたが、ここ3年でパレットを導入し始め、総積載量の5割程度がパレット積卸、3割程度がパレット積み後、卸先で積み替えする形態となった。今後もパレットの割合を増加する予定。【積卸作業時間短縮】
②卸先の集約化
⇒従来、関東方面での卸先は3～4箇所程度回ることが多かったが、取引先との話し合いにより、2～3箇所程度まで集約した。【ドライバーの拘束時間短縮】
③中継輸送
⇒仙台に倉庫を借り、荷物の一部を倉庫で保管することで一運行の卸先（運行距離）を削減。現在は実施に向け方法を検討中。【ドライバーの拘束時間短縮】
④積載効率の向上
⇒生鮮品と冷凍品を混載することで、積載効率を向上させた。

（株）十文字チキンカンパニーの取組イメージ

国土交通省